

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立成章中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

(注) 数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	79.9	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	92.5	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	97.0	92.4

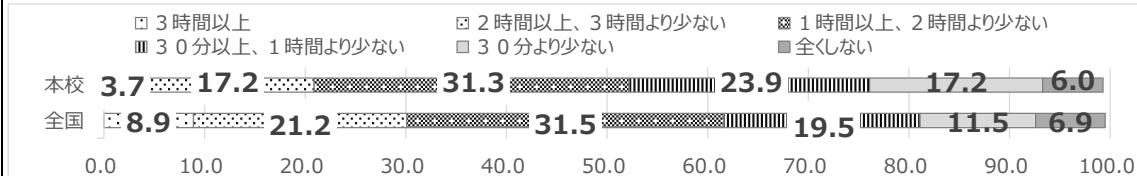
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎自分で考えたり、友達と話し合ったり協力したりしながら、課題の解決に取り組む姿が見られます。
- ◎分からないことがあっても、自分なりに学び方を工夫して学習に取り組んでいます。
- 学習したことを振り返り、次に生かす力をさらに伸ばしていくことが必要です。
- 家庭学習の習慣を身に付け、継続して学習する習慣を身に付けていくことが大切です。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	81.3	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.4	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	83.6	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	69.5	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	90.3	85.4
21	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	88.0	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎学校生活を楽しみ、将来の夢や目標をもちながら生活している生徒が多く見られます。
- ◎人や地域・社会の役に立ちたいという意識が高く、社会への関心が育っています。
- 自分のよさや頑張りを認める機会を大切に、自己肯定感を高めていくことが必要です。
- 毎日の学校生活を通して、前向きな気持ちで過ごせるよう支援していくことが大切です。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	75.3	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

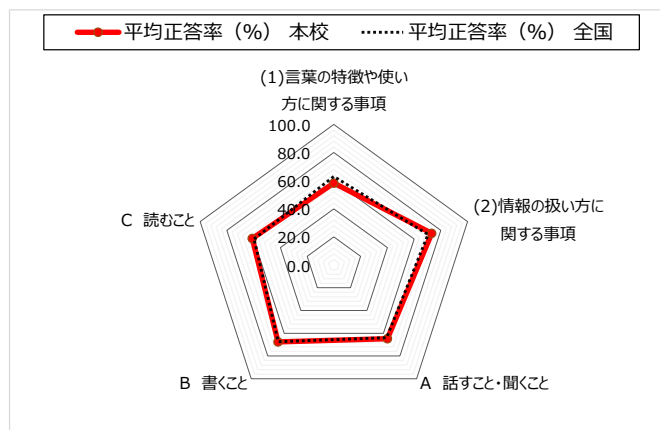
- 自分で考え、対話や協働を通して学びを深めながら、主体的に課題を解決する力を育む授業づくりを進めます。
- 学習の振り返りを通して、自分に合った学び方を選びながら学習を進められるよう支援し、家庭学習の習慣づくりに繋がります。
- 生徒一人一人のよさや頑張りを認め、達成感や充実感を味わえる機会を大切にすることで、自分に自信をもち、前向きに学校生活を送れるように支援します。

【ご家庭では】

- お子さんの話に耳を傾け、自分で考えたことや将来のことについて話をする機会を大切にしてください。
- 家庭学習の時間を確保するとともに、計画や学習の振り返りを一緒に確認しながら、学習習慣が身に付くよう見守ってください。
- テスト等の結果だけでなく、日々の努力や成長、挑戦したことを認める声かけを大切に、お子さんが自分に自信をもち、前向きに生活できるよう支えてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	58.3	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	73.2	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	64.8	63.9
	B 書くこと	67.6	67.4
	C 読むこと	61.0	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	71.6	72.7
短答式	53.5	55.8
記述式	46.7	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、「情報の扱い方」に関する事項や「記述式」の問題で全国平均を上回りました。文章から必要な情報を整理し、自分の考えをまとめて表現する力が身に付いてきていると考えられます。

● 「言葉の特徴や使い方」に関する事項が課題です。語句の意味や使い方など、国語の基礎となる言葉の力を身に付けるために、日頃から読書や語彙を増やす学習を積み重ねていくことが大切です。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 三	単語の活用について理解しているかどうかをみる	82.4	85.4
3 二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	97.2	92.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	32.4	39.8
4 二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	31.0	35.2

調査結果を受けて

【学校では】

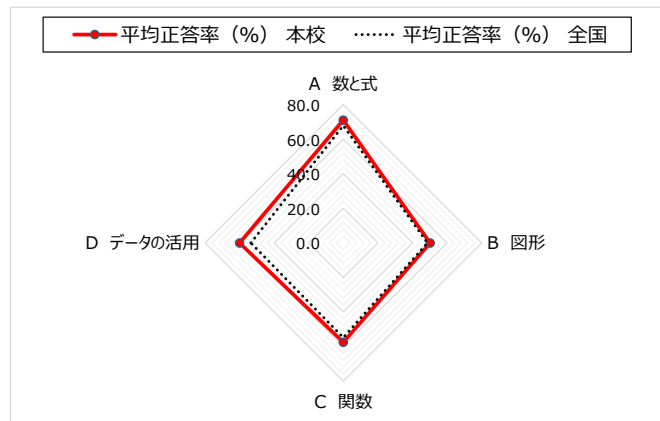
- 授業における友達との話し合いや自分の考えを表現する活動を通して、生徒が主体的に学べる力を育んでいきます。
- 語句や漢字などの基礎・基本の定着を図るために、辞書の活用や、小テストを工夫していきます。
- 文章を読んで考えたことや感じたことを、自分の言葉でまとめたり伝えたりする活動を充実させます。

【ご家庭では】

- 読書に親しむ機会を大切に、さまざまな言葉や表現に触れることで、語彙が豊かになるとともに、文章を読み解く力や考える力が育まれます。
- 家庭での会話を大切に、お子さんが考えたことや感じたことを話す機会が増えることで、自分の考えを整理して伝える力が育まれます。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	71.0	67.8
B 図形	50.2	48.7
C 関数	57.5	54.8
D データの活用	60.0	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.6	59.3
短答式	66.7	64.2
記述式	44.4	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、全ての領域で全国平均を上回りました。特に「データの活用」は6.5ポイント高く、資料やデータを基に考え、数学的に判断する力が身に付いていると考えられます。また、「記述式」の正答率も全国平均を上回り、出題の意図を理解し、自分の考えを整理し、自分の言葉で解き方を説明する力が育っています。

● 今後は、身に付けた知識や技能をさまざまな場面で活用し、特に身近な事象に対して筋道を立てて考えたり、自分の考えをより分かりやすく説明したりする力をさらに高めていくことが大切です。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	90.8	85.7
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	80.3	73.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	35.9	33.9
9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	43.0	31.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 生徒が主体的に課題に取り組み、『学び合い』活動を通して互いの考えを伝え合いながら、深く学び続けることができる授業づくりを進めます。
- 「数学の授業内容はよく分かる」と答えた生徒が8割を超えています。この理解を土台に、「もっと知りたい」「なぜ」という探求心を大切にし、自ら学びに向かう姿勢を育む授業づくりを進めます。
- 数学的な根拠を明確にして自分の考えを説明する活動や、日常生活と関連付けて課題を解決する活動を充実させます。

【ご家庭では】

- お子さんが学習した内容や考え方について話す機会を大切にすることで、自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝える力が育まれます。
- 買い物や天気予報、ニュースなど身近な場面で、数やグラフ、データに触れる機会を大切にすることで、数学を日常生活と結びつけて考える力につながります。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	506
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.3 / 2	2.5 / 5	0.8 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
3	聞くこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
6	読むこと	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
13	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

結果 ※○（強み）、●課題

○ 日常的な話題について、状況を踏まえながら必要な情報を聞き取る力や、語彙・表現・文法などの知識を読解の場面で活用する力が身に付いています。

● 日常的な話題について、文章から必要な情報を適切に読み取ることや、自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある英文で表現することに課題が見られました。

調査結果を受けて

【学校では】

- 聞くことや読むことの力を生かし、目的や場面に応じて必要な情報を読み取りながら、自分の考えを整理して英語で表現する活動の充実を図ります。
- ペアやグループでの言語活動を積極的に取り入れ、聞いたことや読んだことを基に、自分の考えを英語で書いたり伝え合ったりする機会の充実を図ります。

【ご家庭では】

- 日頃から身近な英単語に触れる機会を大切にすることで、英語への興味を広げ、学習意欲の向上につながります。
- お子さんが自分の考えを英語で伝えようとする姿勢を認め、温かく励ますことで、自信をもって前向きに学習に取り組める力が育まれます。